

成果報告書

「インターネットで地域を全力応援します！」

株式会社 図書印刷同朋舎

龍谷大学文学部 3年 木村亮

活動経過

・6～7月：企画会議

6月から7月にかけてプロジェクトの目標設定を行い、どのような企画を行うか大まかな企画の骨格を検討し組み上げました。今回プロジェクトの目標として定めたのは次の二つでした。まだサイトを立ち上げてから1年弱ということもあり地域において知名度があまり浸透していないため、地域の方々に関心をもってもらえるような記事を書くこと。そして、数字を伸ばすこと。その数字を確認するための指標として、自分の担当コンテンツにおける1か月のPV数2000という具体的な数字を掲げさせていただきました。企画の内容としては、京都らしさを出しつつも地域の方に興味をもってもらえるようなものが良いと考え、下京区・東山区における“京都の伝統産業に携わる若手の方たちを取材し掲載する”というものに決定いたしました。

・7～8月：情報収集、取材会議

企画の内容が決定すると、取材を行う方々を決めるべく情報収集と取材会議に取り掛かりました。コーディネーターである山本先生のご紹介で京都伝統工芸館という伝統工芸に携わる方の専門学校を訪ねたり、自身の所属している陶芸部のOB・OGさんを総当たりしたりと手を尽くしましたがなかなか条件に当てはまる方が見つからず。困り果てた時、受け入れ先の同朋舎さんに相談して教えていただいた情報を基に取材先を定めることができました。取材先が決定し取材許可をいただくと、読み手側に興味をもつただけ、かつ取材先の方々の魅力をうまく引き出せるような取材ができるように事前に取材対象となる方の下調べを行うだけでなく、質問事項の精査や事前準備を行いました。

・9～10月：取材活動、記事作成、編集作業

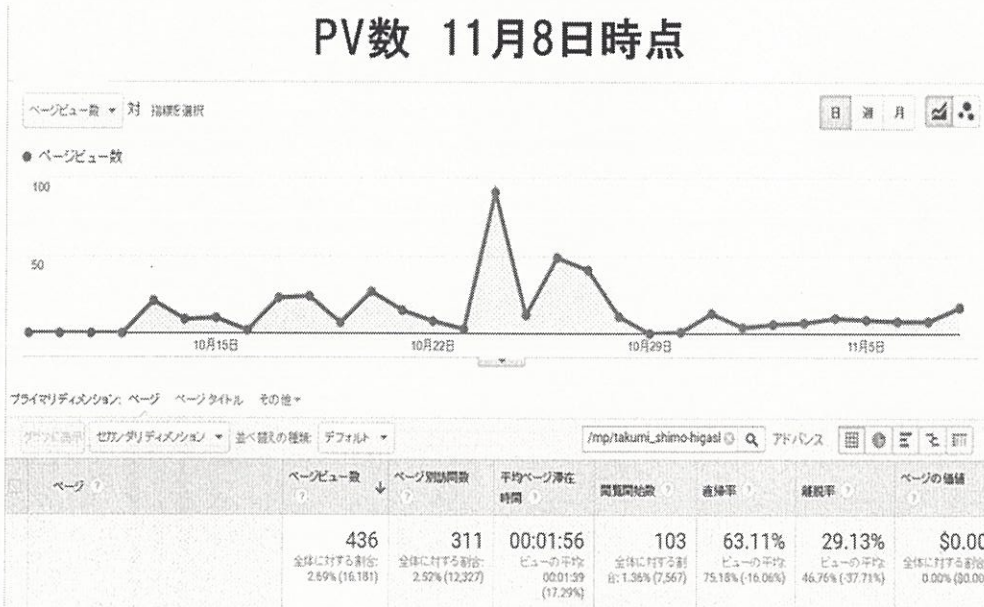
取材時に取ったメモ書きやインタビューの様子を収めたボイスメモを下に記事の執筆に着手しました。昔ながらの職人氣質の気難しい方だったらどうしようかと心配したこともありましたが、みなさんととても気さくにインタビューに応じてくださって取材を進めやすかったです。自分の住んでいる地域にこんなすごい方がいらっしゃるんだと読者の皆様に少しでも興味を抱いてもらえるように、難しい言葉の言い回しを避け、表現方法などを工夫しました。編集作業は基本的な操作を同朋舎様にて教えていただき、作業は自宅にて進めさせていただきました。コンテンツページに掲載する写真の選択からレイアウトまで多くの作業を担わせていただきました。記事内容の確認依頼を行う際には取材先の方に何度も目を通してもらわなければならなかったこともありましたが、最後にはみなさんいい記事ができたねとおっしゃってくださり胸が熱くなりました。

成果

本プロジェクトでは地域にお住まいの方々に関心をもってもらえるような記事を書くこ

とを目標として「受け継がれるもの 京の巧の技」と題しましたコンテンツページを作成させていただきました。

また、地域の方々に向けてコンソーシアム京都のすぐ近くにある旧安寧小学校において、定期的に行われている「下京茶屋」という地域の催しにて発表の場をいただきました。



目標であった「1 か月での PV 数 2000」という数値は記事の投稿から 1 か月経っていませんでしたが、11月8日時点では達成できておらず、今後の課題となるかと思えます。

振り返り

最後に僕自身の振り返りをしたいと思います。企画会議から情報収集、取材や記事作成、コンテンツの編集作業や内容の確認依頼まで、多くの活動をさせていただきました。その中で自分の至らなかった点は大きく3つあると考えます。

一つ目はハウレンソウ、いわゆる報告・連絡・相談の重要性でした。分からないことがあった際にこんなことでご連絡してよいものかとためらってしまったり、取材先への記事の確認依頼が遅くなってしまったりしてと色々にご迷惑をおかけしました。具体例を申し上げますと、取材記事の内容確認依頼を行う際に、メールに金曜日までとあるがそれよりも前に連絡を入れるべきだというご意見をいただいていたにも関わらず指定した期日より前に電話をすることは催促しているかのように相手に対して失礼になるのではないかと考えて金曜日になるまで連絡をしませんでした。その結果、今日はちょっと都合が悪いからまた明日かけ直してもらえないと言われてしまい、確認依頼が遅れてスケジュールに影響が出てしまいました。

また、言葉の表現の難しさも改めて痛感させられました。記事を書く際に「職人」という言葉を使用した時、じぶんは職人ではなく「作家」という表現に思い入れがありそちらを使

ってほしいと言われました。なぜなら自分は作品を創造しているからとおっしゃっていました。取材させていただいた方の中にはご自身でこだわっている点があり、そちらを十分に汲み取ることができなかった結果でした。大切にされている言葉を表現するのはとても難しいと思いました。こういった経験を糧とし、相手の気持ちや意図を的確に表現できるよう努めたいです。

それから、自分の受け身な姿勢も反省すべき点であったと思います。プロジェクトを振り返って、もう少し積極的に動くことができたと感じた点も多々あり、自身の主体性も足りなかったと感じました。これは上記二つの反省点にも当てはまるだけでなく、ある種すべてにおいて通ずることであると思います。

謝辞

最後に、本プロジェクトの実施にあたり私は多くの方にお力添えをいただきました。受け入れ先の株式会社 図書印刷同朋舎様、インターンシップを企画して下さったコンソーシアム京都様、コーディネーターの山本先生、取材先の方々、そして同じプログレスコース受講生の仲間たち。皆様方のお支えによりこのような実習を行うことができました。この場を以て御礼申し上げます。ありがとうございました。

参考資料：

京都に息づく伝統の技を次世代に伝える、若き名工たち

受け継がれるもの 京の巧みの技

類したいもの、伝えたいもの、生み出したいもの



伝統産業が今も脈々と息づく京都で、その伝統の技を受け継ぎ、さらに進化・発展させるために日々切磋琢磨している継承者たちがいます。

このシリーズでは、そんな伝統産業の担い手の皆さんにスポットを当てて、若い視線で捉えた伝統産業への思いを伝えます。

(自分が担当したコンテンツのトップページ)